

## リーディングスキルから始める授業

## 教科書が読めない

野田中学校では、「一人も取り残さない授業」にするための3本柱の一つに、「リーディングスキル」を据えています。リーディングスキルとは、汎用的な基礎的読解力です。一番大切なことは、授業を行う先生方が、「学級の半分の生徒は、教科書が読めない。理解できていない」という前提に立つことです。読めているだろう、理解しているだろうと思っていたことが、実はそうではなかったということです。そうなれば、自ずと授業を変えるしかありません。

## 学習課題の「共書き」

野田中学校では、一人も取り残さないために、学習課題に力を入れています。それが、学習課題の「共書き」と「親密度の低い言葉」の確認です。

共書きは、簡単です。第1段階が「これから学習課題を黒板に書きます。先生と一緒に書き終わるようにしましょう」と言って、ゆっくり板書します。これができるようになったら、第2段階に進みます。それが「聴写」です。「これから学習課題を言います。ノート（ワークシート）に書いてください」と言って、ゆっくり学習課題を言います。その後、学習課題を板書することで、聴写で書けなかった生徒も書くようになります。2・3年生は、第2段階の聴写で大丈夫だと思います。1年生も、野田小学校でやってきているので、すぐにできます。

次に、学習課題の文言で、生徒にとってわかりにくい言葉を確認します。わからないまま進めないことです。授業者が、わかっているだろうと思込めないことです。全員の生徒が、学習課題を把握できるようにします。「この学習課題でわかるだろうか」「もっとこうしたほうがいいな」と、学習課題の吟味をすることは、言うまでもありません。

## リーディングスキルの6分野7項目

ここまでが、共通して実践することになります。あとは、リーディングスキルの6分野7項目の視点から教材研究を行い、教材と生徒の実態から本時で扱う視点を絞り込むようにします。あれもこれもではなく、1つから2つに絞ることが重要です。

6分野7項目とは、以下のものです。この中で、毎時間、授業者が意識すべき大事な視点が、(1) 係り受け解析と(2) 照応解決の2つです。

## (1) 係り受け解析

「文の基本構造を把握する力」です。文節同士の関係を正しく把握する力です。

## (2) 照応解決

「代名詞などが指す内容を認識する力」です。これ、それなどが何を指しているかです。

## (3) 同義文判定

「2つの文の意味が同一かどうかを判定する力」です。

## (4) 推論

「基本的知識と常識から、論理的に判断する力」です。

## (5) イメージ同定

「文と非言語情報（図表など）を正しく対応づける力」です。

## (6) 具体例同定

「定義を読んでそれと合致する具体例を認識する力」です。これには①辞書と②理数があります。

授業でも何でも、最初が肝心です。学習課題の共書き（聴写）、親密度の低い言葉の確認、係り受け解析と照応解決は、必ず実践するようにしてください。みんなでやるのが、大きな力を発揮することになります。「みんなでやる現職教育」です。